

店舗一覧

明石市中央部	本店営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	明石駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
	人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	井ヶ島支店	明石市大久保町江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
	二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221
加古川市・高砂市・播磨町	加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
	宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
	本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270
三木市・小野市・加東市	三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
	天神支店	加東市天神492	0795(47)1011
神戸市東部	滝野支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010
	本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-7	078(411)3281
	六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
神戸市中央部	西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
	神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
	神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
	宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
神戸市北部	兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
	板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001
	鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1	078(591)1221
神戸市西部	ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
	藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
	垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
西宮市	伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
	玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
	西宮今津支店	西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489

〈にっしん〉

最新の決算 ミニガイド

◆2024年5月◆

We will make a fresh step everyday.



彫画:伊藤 太一



日新信用金庫



フリーダイヤル イコー ニッシンバンク

0120-15-2489

(受付時間)平日午前9時から午後5時まで

環境に配慮した植物油インキを使用しています。



日新信用金庫

The Nissin shinkin bank

ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。当庫の2023年度の事業概要についてご報告申し上げます。

2023年度は、中期事業計画（2021年度～2023年度）「支援力の強化と変革への挑戦」の最終年度として、地域・お客さまの課題解決に尽力することで地域社会全体の成長を目指してまいりました。

日本経済は、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し、経済活動の正常化が進むなかで緩やかに回復してきました。しかしながら、先行きの見通しには、世界的な金融引締めによる影響や中国経済の先行き懸念、さらには円安による輸入物価の高止まりや中東地域をめぐる情勢の不安定化など、不確実性が高まっています。

そうしたなか、当庫の取引先である中小企業・小規模事業者は、エネルギーや原材料などの物価の上昇に加え、人手不足の深刻化やそれに伴う人件費の上昇など、デフレからインフレに向かう大きな転機を迎えています。また、日本銀行もこれまでの大規模金融緩和から通常の金融政策に移行する過程にあり、経営のかじ取りは以前にも増して難しくなっています。

こうした環境のもと、2024年3月末において〈にっしん〉は、預金残高8,023億円、貸出金残高4,029億円となり、お陰さまをもちまして当期純利益は832百万円を計上することができました。心より御礼申し上げます。

また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.96%と十分な水準にあります。

〈にっしん〉は2025年4月1日に明石信用金庫、三木信用金庫、神港信用金庫の3金庫合併から50周年を迎えます。

デジタル社会の進展によりお客さまが求めている付加価値や信用金庫の仕事のあり方が変化していくなかで、〈にっしん〉は真価が発揮できるよう新しい時代のFace to Faceを追求し、新たな歴史を積み重ねていけるように努めてまいります。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2024年5月

あかし 信頼の証を次の「時」へ

おかげさまで〈にっしん〉は2025年4月1日に50周年を迎えます。

イベント・セミナーの開催

●『ヴィッセル神戸サッカークリニック』



ヴィッセル神戸のスクールコーチから指導を受け、子どもたちも目を輝かせていました。
(大蔵海岸多目的グラウンド 2023年11月)

●『親子で学ぼう! お金のセミナー』



地域の子どもたちにも楽しみながら、お金のことを学んでもらいました。
(あかし市民広場 2024年1月)

●『にっしん経営塾』



兵庫県立大学大学院の教授を講師に招き、全6回にわたり開催しました。
(本店 2023年10月～2024年3月)

●『建設業向け 助成金・DXセミナー』



建設業向けに2024年問題をテーマとして、セミナーと展示・相談会を開催しました。
(本店 2024年2月)

『にっしん経営塾』のほか、中小企業の支援機関等と連携して、お客さまの経営に役立つ各種セミナーを開催しました。〈にっしん〉は、これからも地域のお客さまの経営のお役に立つセミナー等を開催してまいります。

地域おうえん定期預金の発売



(明石市役所 2024年1月)

明石市及び神戸市の子育て支援事業を応援するため、2023年度も募集総額の0.01%相当額を寄付する『地域おうえん定期預金』を販売しました。お客さまの温かいご支援、ご協力により、多くのご契約をいただき、2024年1月に明石市へ30万円、2024年2月に神戸市へ30万円を寄付しました。

にっしん名店/銘品セレクション2023



2020年に創刊し、ご好評をいただいた『にっしん名店・銘品セレクション』の2023年版を36の事業者さまのご協力を得て、発行いたしました。〈にっしん〉は、これからも地域の魅力を発信してまいります。

金融犯罪防止への取組み



(鈴蘭台支店防犯訓練 2023年11月)



(三木支店表彰 2023年12月)

〈にっしん〉は、お客さまの安心・安全のため、地元警察のご協力のもと、営業店での防犯訓練を実施しています。

また、特殊詐欺を未然に防止したことで、2023年12月に三木支店が三木警察署から、2024年2月に兵庫支店が兵庫警察署から感謝状をいただきました。

〈預金〉 預金 (定期性 流動性) (個人 法人)



【預金】

預金は、2023年3月末に比べて102億円減少し8,023億円となりました。

定期性預金は、お客さまの期待に添える金利設定が出来ず197億円減少しました。半面、流動性預金は94億円の増加となりました。これは、新たなお客さまとの取引開始や、個人定期預金からの振替等によるものです。

今後もお客さまの様々なご要望やご意見にできる限りお応えし、皆さまに喜ばれるサービスを目指してまいります。

【貸出金】

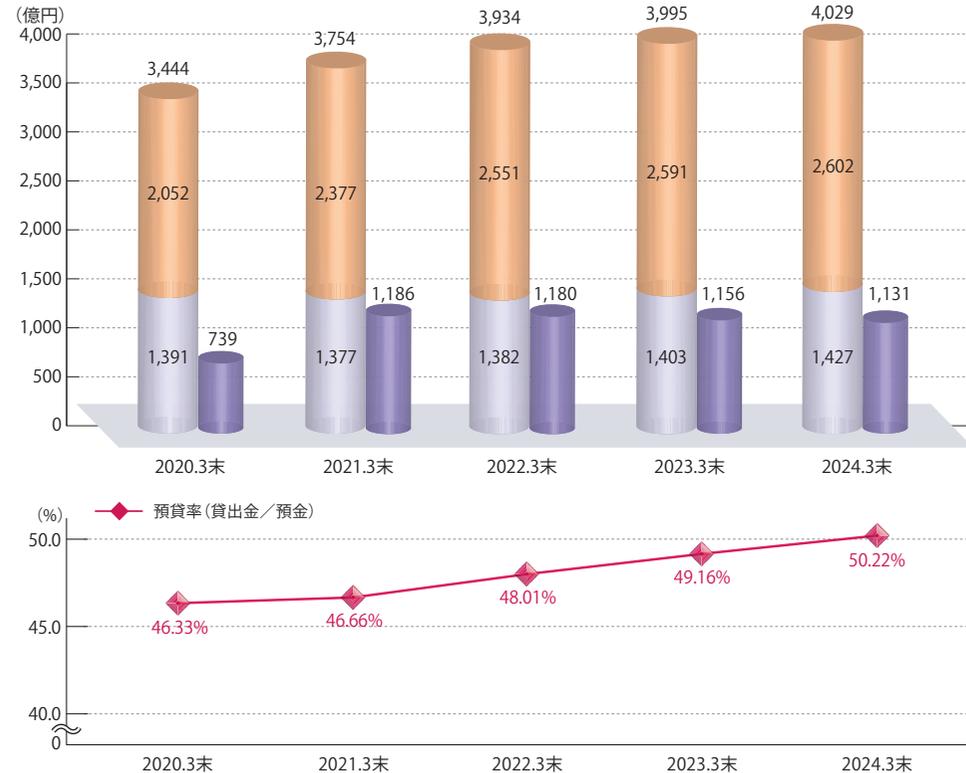
貸出金は、2023年3月末に比べて34億円増加し4,029億円と過去最高になりました。これは、原材料高騰等の影響を受けたお客さまへの資金繰り支援や医療業向け設備資金に取組んだことが主な要因です。預貸率は、預金は減少したものの貸出金は増加したため、1.06ポイント上昇の50.22%となりました。

今後も地域の皆さまがかかえておられる課題の解決に全力で取組み、適切で円滑な資金供給に努めてまいります。

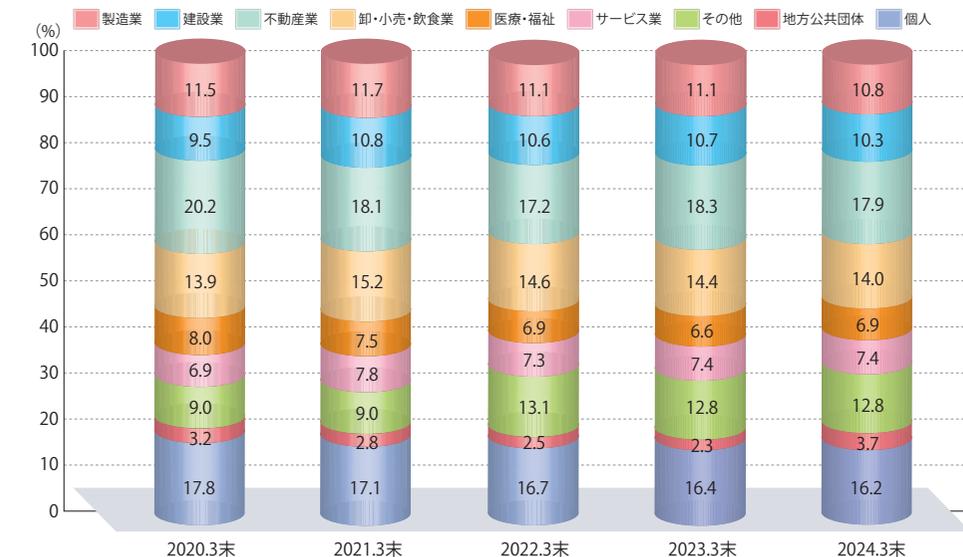
【業種別構成比】

貸出金の業種別構成比の推移をみると、2023年3月末に比べて医療・福祉業と地方公共団体で増加しました。

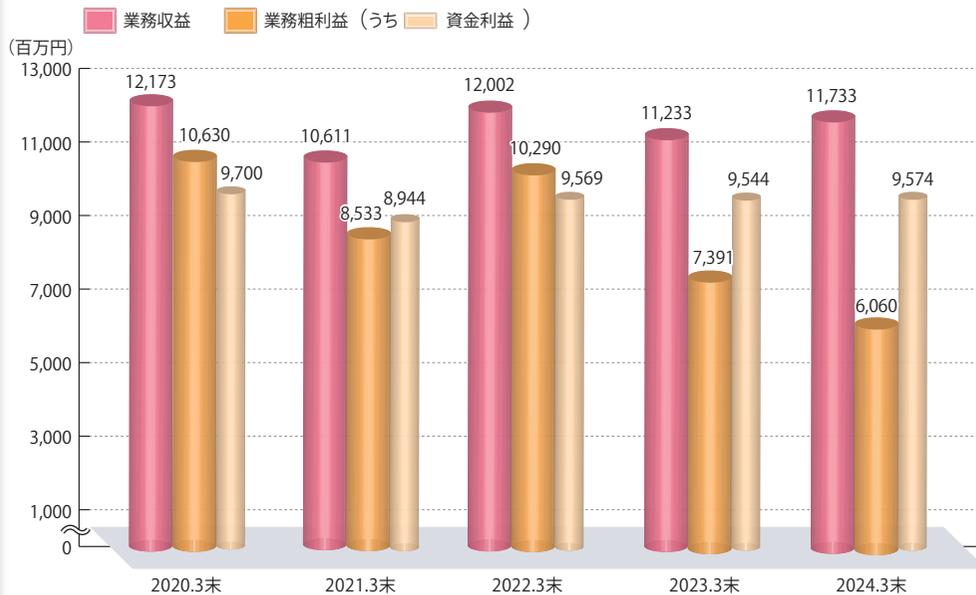
〈貸出金と預貸率〉 貸出金 (運転資金 設備資金) うち 保証協会保証付貸出



〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉

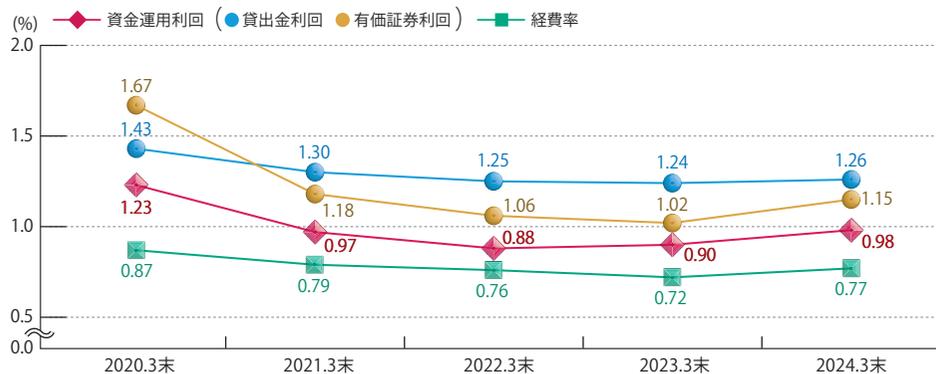


業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役員取引収入等)は、一般企業の売上に当たります。有価証券利息収入が294百万円減少したものの、貸出金利息収入が141百万円増加し、債券売却益などのその他業務収益が592百万円増加したことから、2023年3月末に比べて499百万円増収の11,733百万円となりました。

業務粗利益(業務収益－預金利息等の原価)は、業務収益が増収となり、預金利息が124百万円減少したものの、保有する債券の計画的な売却により債券売却損・償還損が1,769百万円増加したことから、2023年3月末に比べて1,331百万円減益の6,060百万円となりました。

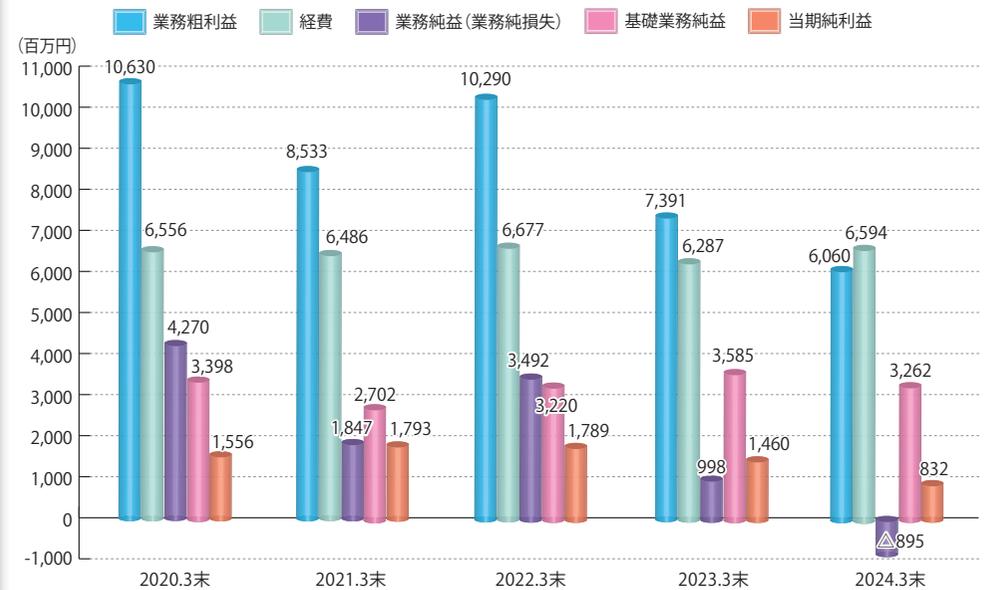
金庫の中核的業務から得られる資金利益(貸出金、有価証券、預け金の運用から発生する利益－預金利息)は、有価証券利息収入が減少したものの、預金利息が減少し貸出金利息収入や預け金利息収入が増加したことから、2023年3月末に比べて29百万円増益の9,574百万円となりました。

〈資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや〉



〈業務粗利益、経費、業務純益(業務純損失)、基礎業務純益、当期純利益〉

〔参考〕業務純益(業務純損失)＝業務粗利益－(経費＋一般貸倒引当金繰入額)
基礎業務純益＝業務粗利益－(経費＋国債等債券関係損益)

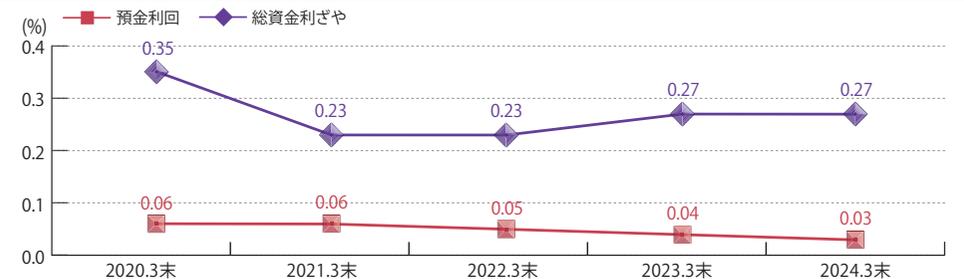


経費は、諸手当の増額や新券対応のための機器改修費用などにより2023年3月末に比べて307百万円増加の6,594百万円となりました。

業務純益は、経費及び一般貸倒引当金繰入額の増加もありましたが、債券売却損・償還損が増加したことによる業務粗利益の減益が大きく、2023年3月末に比べて1,893百万円減益の△895百万円となりました。

一方、債券売却損・償還損といった国債等債券関係損益などを除く本業での収益力を示す基礎業務純益は3,262百万円を維持しています。

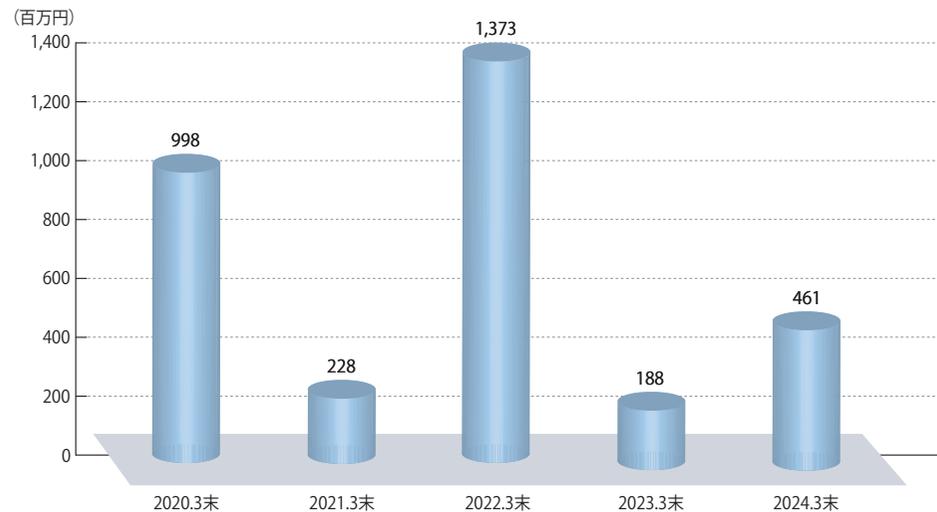
当期純利益は、保有する株式の売却に係る株式関係損益が1,051百万円増加したものの、債券売却損・償還損の増加に起因する業務費用を賄いきれず、2023年3月末に比べて627百万円減益の832百万円となりました。



資金運用利回は、貸出金利回が底打ちし有価証券利回が上昇したことから、0.98%に良化しました。総資金利ざやは、経費率が上昇したものの資金運用利回が改善したことから、2023年3月末と同じ0.27%になりました。

これからも収益力の強化に努めてまいります。

〈貸出金にかかる不良債権処理費用等*〉 *貸出金にかかる不良債権処理費用等は、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金繰入額、債権償却額等の合計額です。

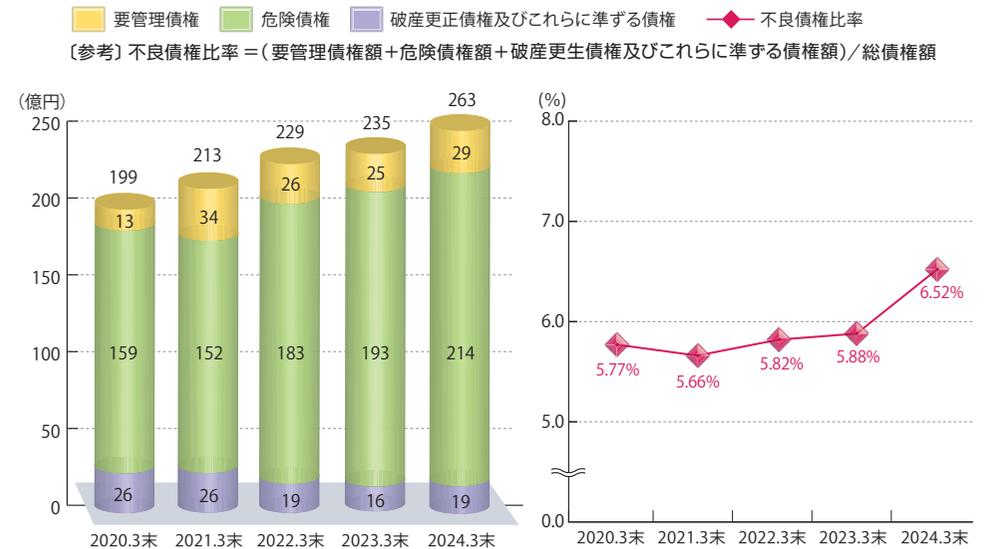


2024年3月末の不良債権処理費用等は、461百万円となりました。

これは原材料費、人件費等の上昇等により、お客さまの経営環境が厳しい中で貸倒引当金を予防的に計上したことにより、増加したものです。

今後も貸出債権の不良化防止に向けて、お客さまの課題についてきめ細かな支援を全力で取組むと同時に、将来のためにも十分な引当を行ってまいります。

〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉



不良債権は、要管理債権、危険債権、及び破産更生等債権に分類されます。

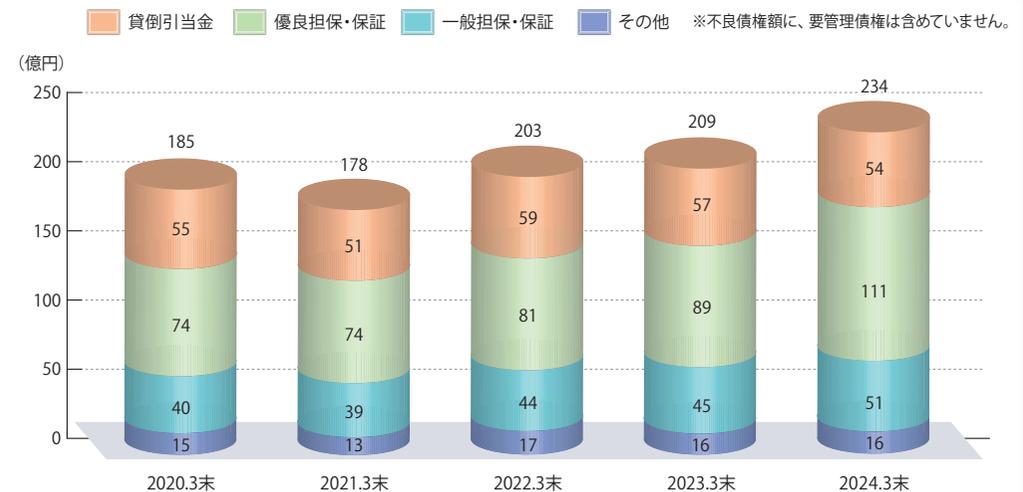
不良債権残高は返済条件の変更を希望されるお客さまや倒産先が増加したことにより2023年3月末に比べて27億円増加の263億円となりました。

不良債権比率は2023年3月末に比べて0.63ポイント上昇の6.52%となりました。

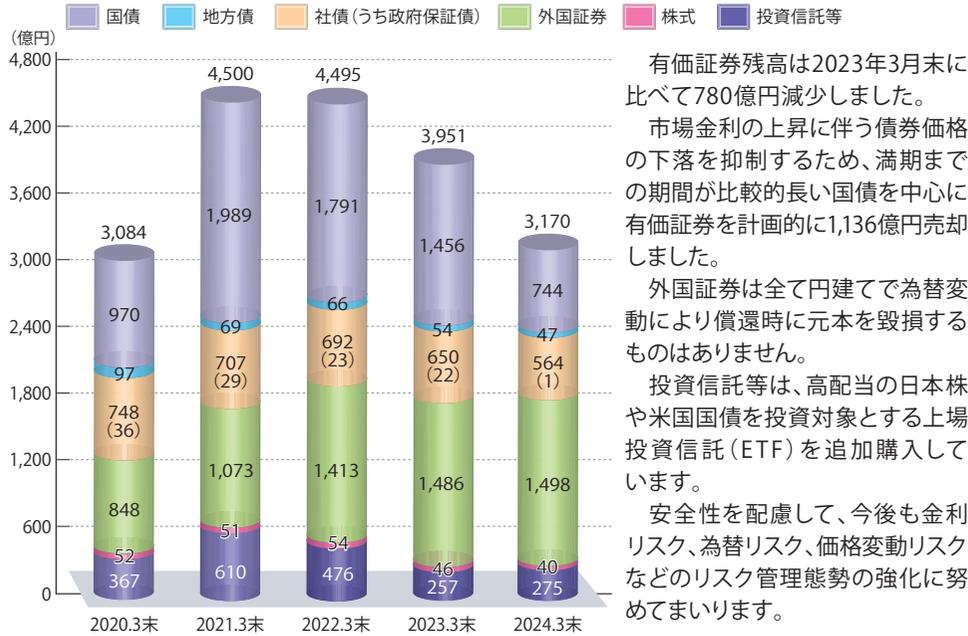
事業性評価や外部支援等を活用して、お客さまの経営改善に一体となって取組み、不良債権の減少に努めてまいります。

〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

不良債権(要管理債権を除く)234億円の保全状況は右の通りです。貸倒引当金は54億円を計上しています。これは会計上損失処理済となります。優良担保・保証(保証協会の保証等)で保全されている111億円と、一般担保(土地・建物等)・保証で保全されている51億円を合わせた163億円は回収が確実であると見込んでいる額です。その他の16億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。



＜有価証券の種類別保有状況＞



有価証券残高は2023年3月末に比べて780億円減少しました。

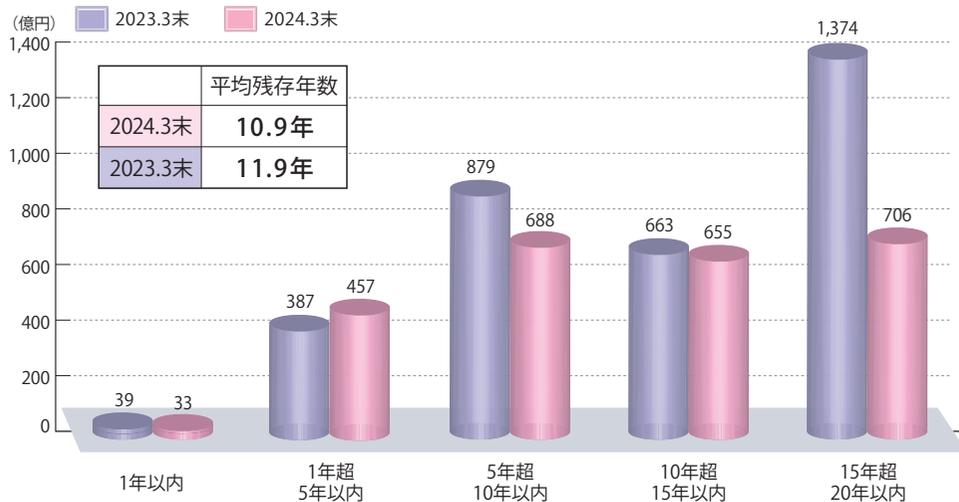
市場金利の上昇に伴う債券価格の下落を抑制するため、満期までの期間が比較的長い国債を中心に有価証券を計画的に1,136億円売却しました。

外国証券は全て円建てで為替変動により償還時に元本を毀損するものではありません。

投資信託等は、高配当の日本株や米国国債を投資対象とする上場投資信託(ETF)を追加購入しています。

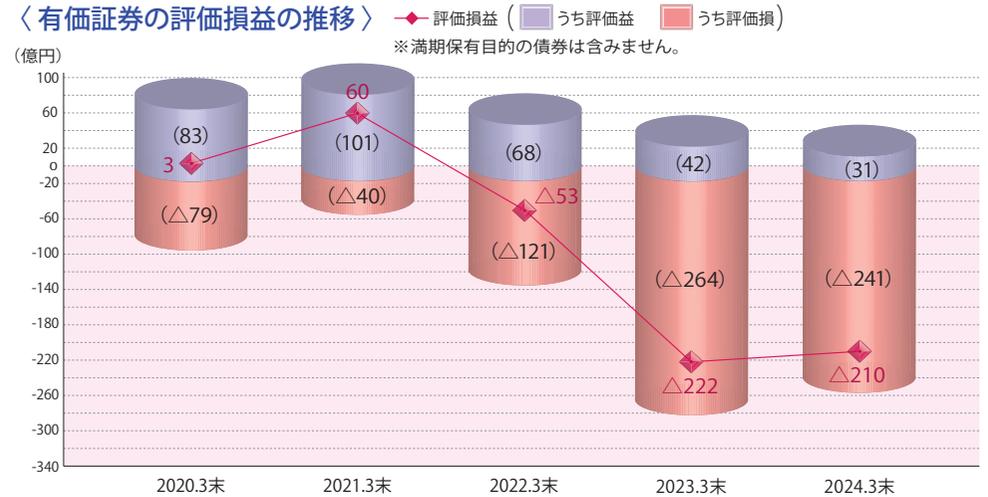
安全性を配慮して、今後も金利リスク、為替リスク、価格変動リスクなどのリスク管理態勢の強化に努めてまいります。

＜債券(償還までの期間別に見た残高)＞

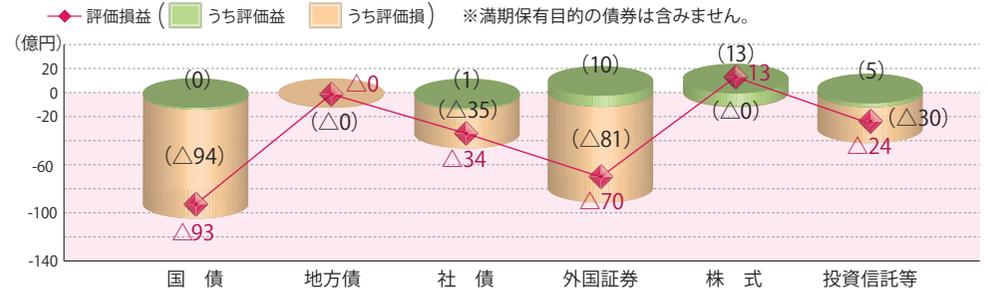


有価証券のうち株式及び投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したグラフです。計画的に債券売却を進めた結果、15年超20年以内の残高が2023年3月末に比べて667億円減少しています。新たな投資については原則として期間10年以内としています。なお、期間20年超の債券への投資は行っていません。

＜有価証券の評価損益の推移＞



＜有価証券の種類別の評価損益(2024年3月31日現在)＞



有価証券の評価益は31億円、評価損は241億円、有価証券全体で差引210億円の評価損となっています。

保有する有価証券の圧縮に努めましたが、世界的なインフレ高進で海外金利が高止まりしていることに加え、国内の金融政策見直し等により、評価損益は2023年3月末に比べて12億円良化に留まりました。一方で、金利上昇に対する耐性は満期償還までの期間の短縮化により改善しました。

有価証券のうち債券の評価損は174億円で約7割を占めています。債券は投資先の倒産等がなければ額面全額が償還されるので原則として保有を継続する予定です。しかしながら、さらなる市場金利の上昇による評価損拡大に備えて債券を中心に計画的に売却も進めてまいります。

債券とは

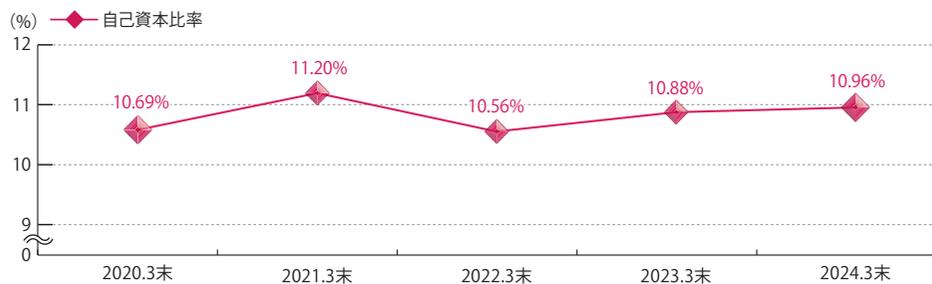
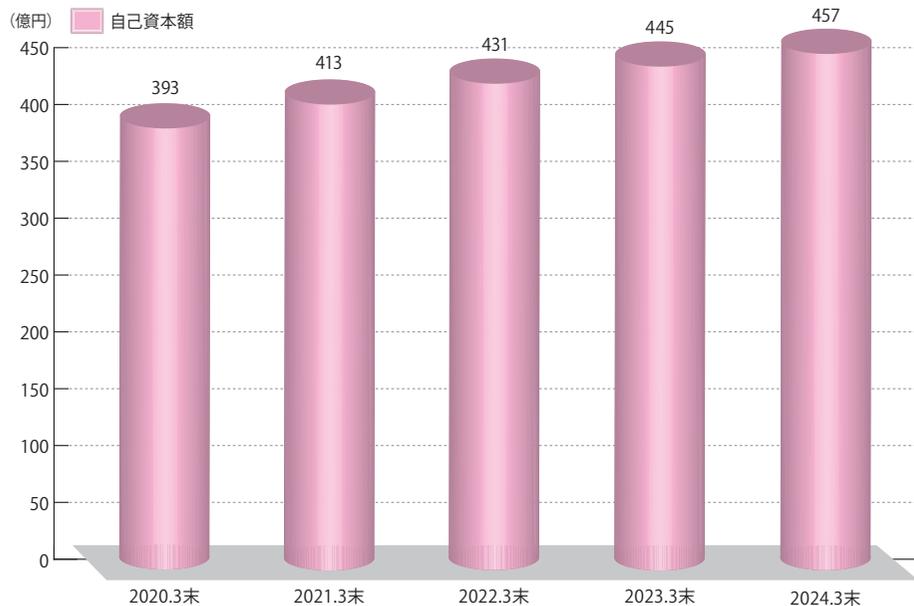
債券は、資金を必要とする国や地方公共団体、会社などが資金を調達するために発行されます。一般的に満期償還時に額面全額が償還されることが約束されており、定期的に利息収入が得られることから比較的安定的な運用が可能です。

満期償還前でも売却による換金が可能ですが、債券の価格は市場の状況により日々変動しますので、満期償還前に売却した場合は投資元本を割り込むことがあります。

市場金利の推移



〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



(億円)

	2020.3末	2021.3末	2022.3末	2023.3末	2024.3末
リスクアセット	3,680	3,689	4,082	4,098	4,170

自己資本比率は、10.96%となりました。

〈にっしん〉の自己資本比率は、金融機関への預け金の増加などにより、リスク・アセットが71億円増加したものの、自己資本額が11億円増加したことから、2023年3月末に比べて0.08ポイント上昇しました。国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持しています。

これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

〈会員数〉



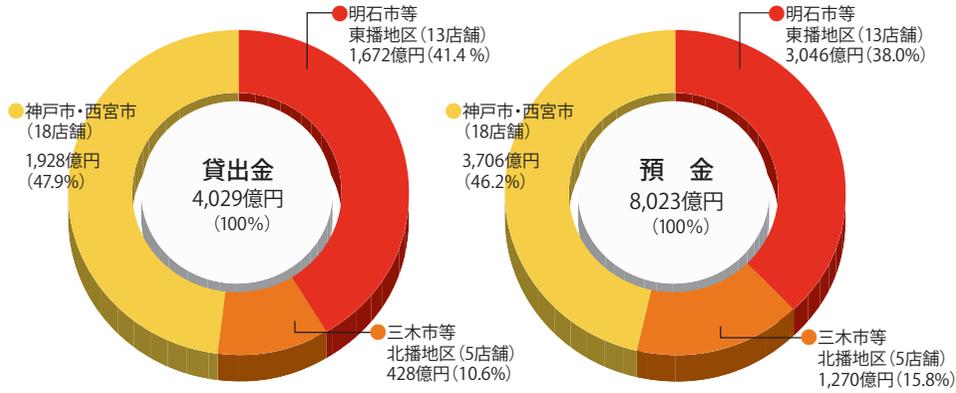
法人会員数は増加しましたが、個人会員数は所在不明会員の除名および死亡等による法定脱退が多く、会員数は2023年3月末に比べて527人減少しました。

〈出資金額〉

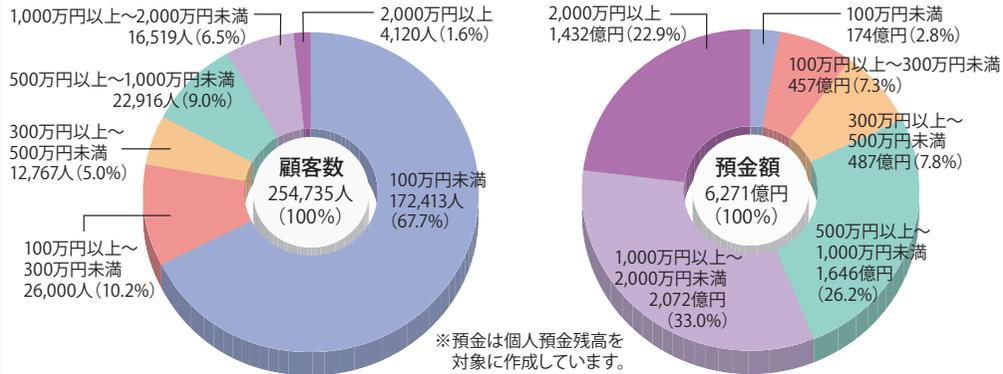


会員数は減少しましたが、新しい法人会員の出資が増えたため、出資金額は増加しています。

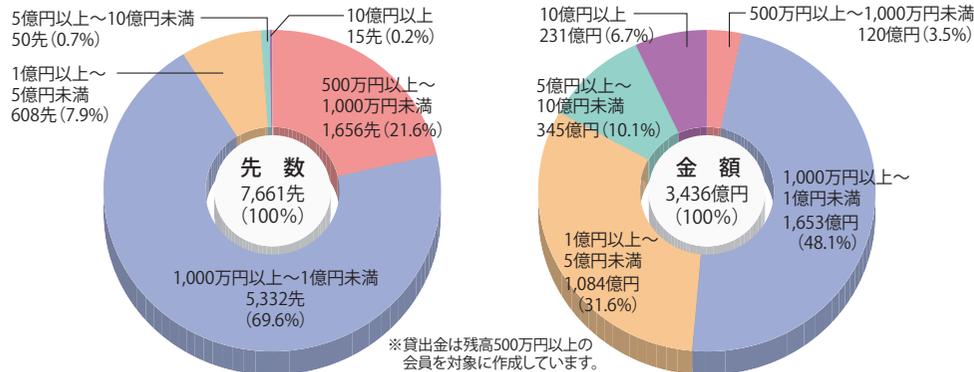
〈貸出金・預金の地域別構成〉 (2024年3月31日現在)



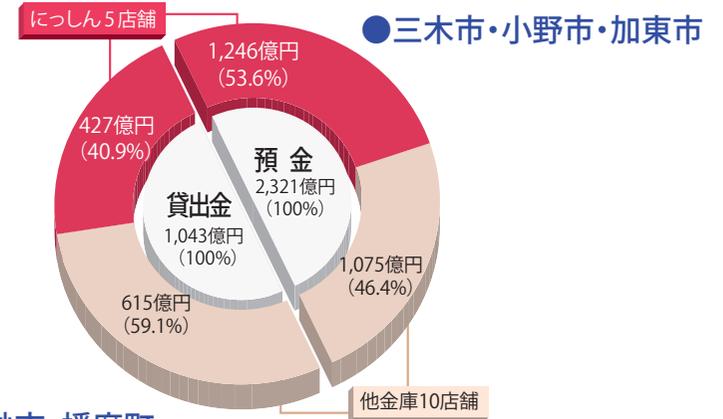
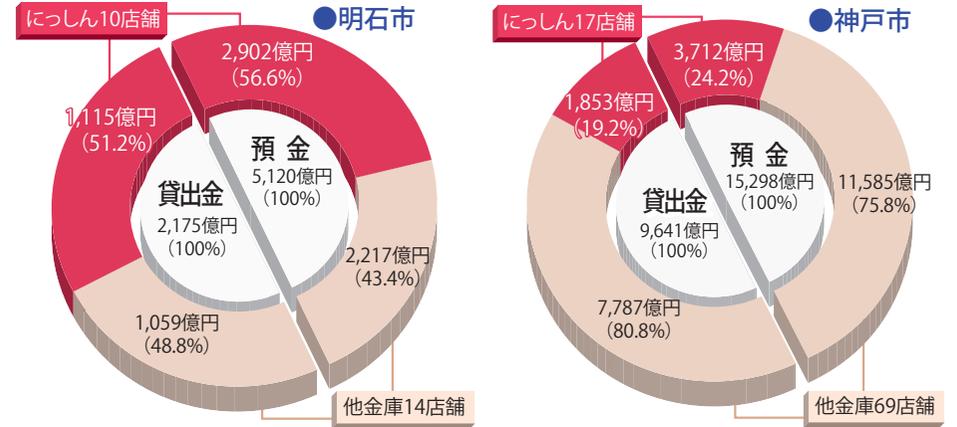
〈預金者のプロフィール〉〈個人預金の残高階層別に応じた顧客数と預金額〉 (2024年3月31日現在)



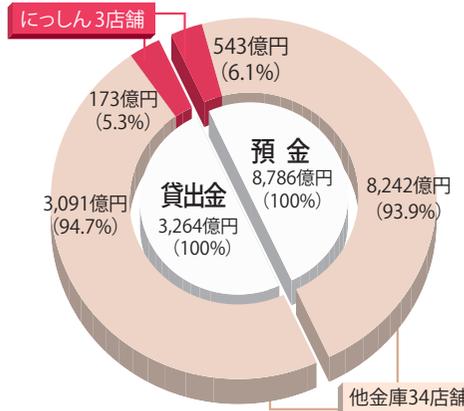
〈貸出先のプロフィール〉〈貸出金の残高階層別に応じた先数と金額〉 (2024年3月31日現在)



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉 (2024年3月31日現在)



加古川市・高砂市・播磨町



西宮市

